

健康福祉サービス第三者評価結果 公表 共通様式

1 事業者情報

福祉サービスの種別	保育所
事業所名	守山市立吉身保育園（本園・分園）
代表者氏名（管理者）	園長 大西 美幸
法人名	社会福祉法人 洛和福祉会
定員（利用人数）	本園 150名 分園 25名
施設・事業所所在地	本園 守山市吉身二丁目6番61号 分園 守山市吉身三丁目2番26号
T E L	本園 077-582-4477 分園 077-583-3667
F A X	本園 077-582-4477 分園 077-583-3667
電子メール	yoshimi_enchou@rakuwa.or.jp
ホームページアドレス	https://www.rakuwa.or.jp/hoiku/yoshimi.html

2 第三者評価機関

第三者評価機関名	一般社団法人 滋賀県介護福祉士会
評価実施期間	令和4年12月5日・12月7日

3 評価の概要

○ 総合評価

守山市立吉身保育園は、昭和46年1月に定員120名で開園した歴史のある公設民営の保育園です。園舎は守山市の中心部にあり、JR守山駅や市役所も近く、交通の便が良いため、生活し易く住宅地として開発が進んできた地域です。近年はマンション建築も増え、子育て世代を中心とした人口流入に伴う乳幼児人口が増加しています。施設環境としては、近くに県立の医療機関や保健・医療関係の建物、官庁街、多種の公共施設が点在した地域資源に恵まれた場所にあります。

「子どもが現在を最も良く生き、望ましい未来をつくり出す力の基礎を培う」を保育目標とし、0歳～2歳児保育は『育児担当保育』、3歳～5歳児は『たてわり保育』を基本として、様々な人と触れ合うなかで豊かな心を育み、人として生きる力を身につける保育に取り組んでいます。

また、*人権を大切にすることを育てる保育の展開、*集団生活の場における基本的な生活習慣の積み重ね、*遊びの展開、*社会性の育ちの保障、*保護者の思いを大切に共に子育てを進める、*地域との連携の中で人と人との関係を捉え、多世代との触れ合いの中で子どもの育ちを育成する等々の重点目標を掲げ、保育の充実に努めている保育園です。

○ 特に評価の高い点

①. 地域に認められた、吉身保育園ならではの保育運営

- ・吉身保育園は、公立保育園として開園され、平成22年4月から指定管理者として「洛和福祉会」が運営を担っています。洛和福祉会本部は医療・介護事業を主に展開する社会福祉法人が運営母体ですが、歴史ある吉身保育園の保育理念を引き継ぎ、地域から信頼される園運営を行っています。
- ・守山駅周辺の子育て人口の増加による待機児童解消や児童数の増加に対応するために開園して以降も、市の保育ニーズに準じた園児の受入れ定員を都度変更してきた。また、平成26年には乳幼児数増加を踏まえて吉身小学校内に分園を開園した。このように行政と密な連携を図りながら、地域の保育事情に応じた園運営を行い、市の保育行政の一翼を担ってきた実績がある。
- ・園には保健担当として常勤の看護師が在籍しており、何らかの医療ニーズのある子どもでも受け入れ、日々の健康観察、感染症の予防指導においても保護者の安心感を得ています。また、地域の保育ニーズに対応した延長保育や子育て支援への取り組み、子どもの人権尊重のための人権保育、支援を必要とする子どもたちの受入れと市担当課との連携、近隣の幼・保・小・中・高との連携、地域の社会資源（民生委員児童委員、主任児童委員との連携、学区民の集いへの参加、「ハッピーさん」

との交流、「さくらんぼ教室」等の子育て支援、民間事業所との連携)など、公設民営の保育園として幅広い活動と関係構築に努め、地域住民に認められた地域に根差した保育園であると考えます。

②. 子どもの心身の発達につながる特色ある保育

- ・ 吉身保育園では、特徴的な保育実践に取り組んでいる。3歳未満児保育として『育児担当保育』を行っている。家庭的な雰囲気の中で保育士の温かな愛情のもと、一人ひとりの生活リズムを大切にし、気持ちの安定を図る。子どもから見た安心できる室内環境や検索行動が十分できる保育環境、一人ひとりの発達に即した応答的な関わりなどにより、子どもの情緒の安定を図る保育を行っている。
- ・ 一方、3・4・5歳児保育は『たてわり保育』として実践している。異年齢が交わって遊ぶことで仲間意識が生まれ、子どもが主体的に活動し、自発性や探求心を高め自分への自信に繋がっている。このような実績のある取組みにより、豊かな人間性を持った「ひと」として育成し、自らの力で未来を切り開く力の基礎が培われている。

③. 法人として充実した研修体制

- ・ 法人として職員の「年間研修計画」を作成し、スキルアップを支援している。保育協議会主催の「キャリアアップ研修」に職員を派遣し、研修報告書に「期待する職員像」が記述されている。職員の評価に関しては個別面談を実施し、自己評価も行っている。処遇改善に関しても法人内で詳細な基準が定められており、職員が将来の自分の姿を描くことができるような仕組みが整っている。
- ・ 労務管理は園長が管理し、有給消化に関しては積極的な取得を促している。法人内にはメンタルヘルスの相談窓口もあり、職員の心身の健康管理を行っている。福利厚生として「リロクラブ」があり、福利厚生クラブや慶弔金・映画観賞券の割安な斡旋など充実した福利サービスが整っている。ワーク・ライフ・バランスに配慮し、「ワーク・ライフ・バランス休暇制度」や「リフレッシュ休暇(10日間)」があり、4週8休以外の休暇を取得できるよう取り組んでいる。

④. 分園について

- ・ 分園は、0歳～2歳児だけのこじんまりとした環境で、乳児の思いに寄り添った保育が行われている。育児担当保育を行い、家庭的な雰囲気の中で、一人ひとりの気持ちの安定を図り、生活リズムを整えるよう保育しています。
- ・ 小学校の校舎を改装して使っているため、設備環境面では支障が出ている箇所はあるが、反面小学校内に保育園があるメリットとして、小学校には卒園生も多く在籍していることから、園児が校庭に出ている時間と休み時間が被ったときには、自然とお兄ちゃん、お姉ちゃんたちと関わりが持てる環境にある。コロナ感染予防のた

め、子どもたちと地域住民との触れ合える機会は少なかったが、今年度から「ハッピーさん」と交流する機会を設け、小学生以外との関わりが持てるよう取り組みが始められている。

○ 改善を求められる点

① 保育園運営のために必要な法令等の整備

- ・園の運営や適切な保育を行うための、遵守すべき法令等を理解する研修は、年間研修計画に盛り込まれ職員は定期的に受講している。今後、地域社会がより複雑化、多様化、少子化などしていく流れの中で、園の運営や保育士という専門職として、より多くの関連する法令を確認し、保育に活かしていく必要がある。保育士が日々の保育の中で、ちょっと気になった時などに、自分たちが専門職として拠り所となる法令や指定基準などを、都度確認するための法令集などを、文書化あるいはパソコン内で随時確認できるよう整備することを期待します。

② 本園の災害用備蓄の整備

- ・緊急災害時の本園の災害用備蓄に関しては、近くの吉身小学校が避難場所として指定されており、小学校には分園もあり災害用備蓄は小学校に整備されているとのことで、本園での備蓄はありません。昨今、想定外の自然災害が発災していることもあり、道路の損壊、天候等によっては小学校まで避難することさえ危険な状況も考えられることから、本園での最低限の防災用品の備蓄整備を望みます。

③ 保護者・地域への情報発信方法の検討

- ・今回の第三者評価における保護者アンケートの中で、園の頑張っている取組みが、保護者へ伝わっていないと思われるコメントが複数見受けられました。具体的には、「保護者からの苦情や意見に対して、園から「園だより」や「個別面談」を通じて説明があるか」の質問に対して「いいえ・どちらでもない」と回答された方が14名、「子どもの給食の食べ具合は、必要に応じて連絡されているか」との質問には、「いいえ・どちらでもない」と回答された方が21名おられます。園としては送迎時や行事、個別アンケート、懇談会、連絡ノート、園だよりなどの文書、メールなどなど、様々な手段を用いて園の取り組みを周知していますが、保護者の皆さまへ届いていない事が推測されます。

これは保育園だけでなく福祉サービス業界全体の課題ではありますが、今後も様々な方法により根気よく、園独自の良い取り組みを保護者や地域に向け発信していくことが必要だと思われます。

④ 分園について

- ・吉身保育園分園においては、小学校の校舎を一部併用して運営していることで、不具合な点も出てきており、職員の工夫で何とか対応している点も見受けられました。今回の第三者評価を通じて早急に改善を希望したいこととして、園児の送迎時に小学校の駐車場が有効に活用できていない点があります。小学校の教職員の方々の駐車場の確保も必要ですが、園児の送迎時は小学生の登下校時とも重なって車の出入りも激しく危険な状態です。行政とも話し合っていたいただき、危険の回避に向けた検討を期待します。

4 第三者評価結果に対する事業者のコメント

吉身保育園は、育児担当保育やたてわり保育を取り入れながら、子どもたちが安心してのびのびと保育園生活が送れるよう保育しています。

今回の評価結果で高い評価をいただいたことは、職員の励みにもなり今後も引き続き職員と共に努力してまいります。

改善を求められている点につきましては、必要な法令集の準備を行い必要な時に職員が確認できるよう整備していきたいと思っております。

また、災害用の備品の整備につきましても少しずつ防災用品の備蓄整備を行っています。子どもたちの命を一番に考え、想定外の災害にも対応できるようにしていきたいと思っております。

情報発信の方法につきましては、全体的な苦情やご意見は、園だよりなどで知らせるようになっています。個人的なことにつきましては、その方個人に伝えたりしている現状です。今後、保護者への発信方法を検討し保護者や子どもたちが安心して保育園生活ができ、信頼しあえる関係性になるよう努力していきたいと思っております。

分園につきましては、送迎時の駐車場が有効に利用できていないことにつきましては、今後も行政や洛和会本部とも検討していきたいと思っております。

今後も保護者や保育園を見守ってくださる地域の方のご支援やご協力を頂きながら、安心安全な園づくりに努めていきたいと思っております。